

貯法：室温保存

有効期間：3年

承認番号 21900AMX00293000

販売開始 2007年7月

抗アレルギー点眼剤  
ケトチフェンフマル酸塩点眼液

## ケトチフェンPF点眼液0.05%「日点」

Ketotifen PF Ophthalmic Solution

## 2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

## 3. 組成・性状

## 3.1 組成

販売名	ケトチフェンPF点眼液0.05%「日点」
有効成分	1mL中 日局 ケトチフェンフマル酸塩 0.69mg (ケトチフェンとして 0.50mg)
添加剤	ホウ酸、トロメタモール、プロピレングリコール、ポリオキシエチレンヒマシ油、pH調節剤

## 3.2 製剤の性状

販売名	ケトチフェンPF点眼液0.05%「日点」
pH	4.8~5.8
浸透圧比	0.7~1.0
性状	無色~微黄色澄明、無菌水性点眼剤

## 4. 効能又は効果

アレルギー性結膜炎

## 6. 用法及び用量

通常1回1~2滴を1日4回(朝、昼、夕方及び就寝前)点眼する。

## 9. 特定の背景を有する患者に関する注意

## 9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

## 11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

## 11.2 その他の副作用

	0.1~5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症	眼瞼炎、眼瞼皮膚炎、そう痒感	—	発疹、眼部腫脹、眼瞼浮腫、顔面浮腫
眼	結膜充血、刺激感	角膜びらん	眼痛、霧視、眼乾燥、結膜炎、羞明
その他	眠気	—	頭痛、口渇

注)発現頻度は使用成績調査を含む。

## 14. 適用上の注意

## 14.1 薬剤交付時の注意

- 患者に対し以下の点に注意するよう指導すること。
- 薬液汚染防止のため、点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。
- 患眼を開眼して結膜嚢内に点眼し、1~5分間閉眼して涙嚢部を圧迫させた後、開眼すること。
- 他の点眼剤を併用する場合には、少なくとも5分以上間隔をあけてから点眼すること。

## 16. 薬物動態

## 16.1 血中濃度

<sup>14</sup>C-ケトチフェンフマル酸塩の点眼液(9.67mg/0.195mCi/mL)50 $\mu$ Lをウサギに1回投与したとき、血中への移行がみられたが低値であった。頻回投与した場合の定常状態における血漿中ケトチフェンフマル酸塩濃度は、結膜中の濃度の1/70程度と予測された<sup>1)</sup>。

## 16.3 分布

<sup>14</sup>C-ケトチフェンフマル酸塩の点眼液(9.67mg/0.195mCi/mL)50 $\mu$ Lをウサギに1回投与し、眼組織への移行性を検討した。

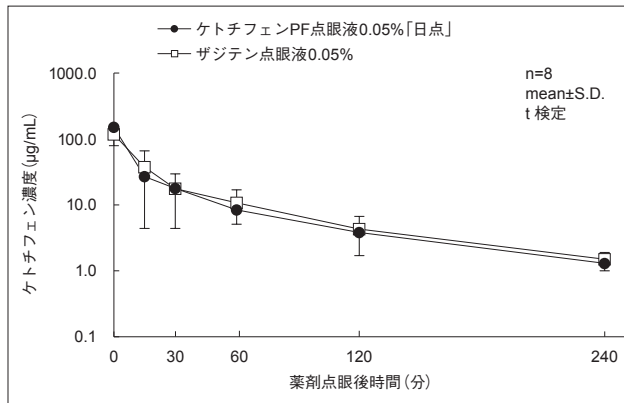
眼組織における<sup>14</sup>C-ケトチフェンフマル酸塩の濃度は投与後15分に最高値を示した。最も高い濃度を示したのは角膜(上皮)で、次いで結膜、角膜(内皮及び実質)、虹彩、強膜(前部)、毛様体、外眼筋、前房水の順であった。

他の眼組織中の平均滞留時間が3時間以下であるのに比べ、結膜では平均滞留時間が5.7時間と長い値を示した<sup>1)</sup>。

## 16.8 その他

## 16.8.1 生物学的同等性試験

家兔の結膜嚢内にケトチフェンPF点眼液0.05%「日点」とザジテン点眼液0.05%をそれぞれ1回50 $\mu$ L、2分間隔で5回点眼投与して、家兔結膜嚢内のケトチフェン濃度を測定した結果、すべての測定時点において両剤に有意差は認められず、生物学的に同等であると判断された<sup>2)</sup>。



## 17. 臨床成績

## 17.1 有効性及び安全性に関する試験

## 17.1.1 国内第Ⅲ相試験

アレルギー性結膜炎患者(262例)を対象に0.05%ケトチフェン点眼液(128例)又は2%クロモグリク酸ナトリウム点眼液(134例)を1回1~2滴、1日4回(朝、昼、夕方及び就寝前)、4週間点眼した二重盲検比較試験において、全般改善度は0.05%ケトチフェン点眼液群66%、2%クロモグリク酸ナトリウム点眼液群63%で両群間に有意差は認められなかった。また0.05%ケトチフェン点眼液投与群に副作用は認められなかった<sup>3)</sup>。

## 18. 薬効薬理

## 18.1 作用機序

ケトチフェンフマル酸塩は、肥満細胞からのメディエーター遊離を抑制し、ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体への結合を遮断することで抗アレルギー作用及び抗ヒスタミン作用を示す<sup>4)、5)</sup>。

## 18.2 抗アレルギー作用

ケトチフェンはPCA(受動的皮膚アナフィラキシー)反応を抑制する(ラット)<sup>4)</sup>。

ヒスタミン、SRS-A等のケミカルメディエーターの遊離を抑制する(ラット腹腔肥満細胞、ヒト白血球中好塩基球・好中球*in vitro*)<sup>4)、6)、7)</sup>。また、PAF(血小板活性化因子)による好酸球の活性化を抑制する(モルモット<sup>8)</sup>、ヒビ<sup>9)</sup>)。

## 18.3 抗ヒスタミン作用

ケトチフェンはヒスタミンによる気管支収縮(モルモット)、血管透過性亢進、皮膚反応(ラット)等を抑制する<sup>4)</sup>。

## 18.4 動物結膜炎モデルにおける作用

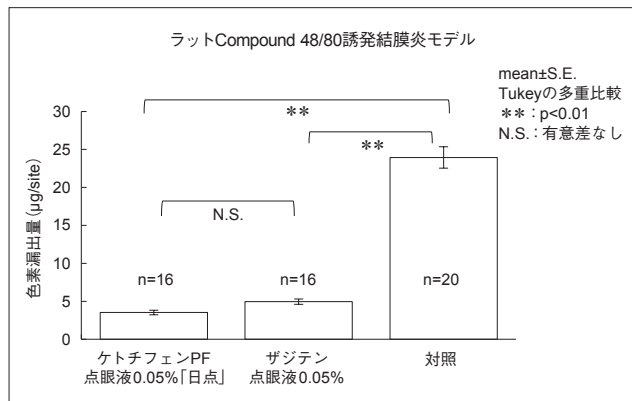
動物結膜炎モデルにおいてケトチフェンはIgE結膜炎(ラット、モルモット、点眼)及びCompound 48/80誘発結膜炎を抑制する(ラット、点眼)<sup>10)</sup>。

抗原誘発により結膜炎症状とともに好酸球、好中球の結膜浸潤がみられるが、ケトチフェンはこれを抑制する(モルモット、点眼)<sup>11)</sup>。

## 18.5 生物学的同等性試験

### 18.5.1 ラットCompound 48/80誘発結膜炎モデルに対する効果

ケトチフェンPF点眼液0.05%[日点]とザジテン点眼液0.05%の効果をラットにおけるCompound 48/80誘発結膜炎モデルを用いて、色素漏出量を指標として比較した結果、両剤に有意差は認められず、生物学的に同等であると判断された<sup>12)</sup>。



## 19. 有効成分に関する理化学的知見

一般名：ケトチフェンフマル酸塩 (Ketotifen Fumarate)

化学名：4-(1-Methylpiperidin-4-ylidene)-4H-benzo[4,5]cyclohepta[1,2-b]thiophen-10(9H)-one monofumarate

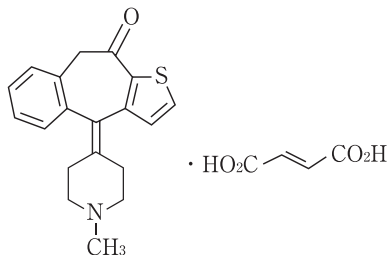
分子式：C<sub>19</sub>H<sub>19</sub>NOS · C<sub>4</sub>H<sub>4</sub>O<sub>4</sub>

分子量：425.50

性状：白色～淡黄白色の結晶性の粉末である。メタノール又は酢酸(100)にやや溶けにくく、水、エタノール(99.5)又は無水酢酸に溶けにくい。

融点：約190℃(分解)

構造式：



## 20. 取扱い上の注意

開栓後4週間経過した場合は、残液を使用しないこと。

## 22. 包装

プラスチック点眼容器 5mL×10本

## 23. 主要文献

- 1) 太田真一 他：臨床医薬. 1988；4(11)：2183-2191
- 2) 社内資料：生物学的同等性試験 I
- 3) 三国郁夫 他：臨床評価. 1989；17(2)：275-297
- 4) Martin U, et al.：Arzneimittelforschung. 1978；28(5)：770-782
- 5) 高折修二 他：グッドマン・ギルマン薬理書 第12版. 廣川書店. 2013；1171-1179
- 6) 熊谷朗 他：メディカルサンド. 1980；8(2)：87-93
- 7) 岸本真知子 他：アレルギーの臨床. 1984；4(2)：149-151
- 8) Morley J, et al.：Agents Actions Suppl. 1988；23：187-194
- 9) Arnoux B, et al.：Am Rev Respir Dis. 1988；137(4)：855-860
- 10) 山口武 他：医薬品研究. 1989；20(1)：48-56
- 11) 石崎道治：アレルギー. 1986；35(12)：1149-1157
- 12) 社内資料：生物学的同等性試験 II

## 24. 文献請求先及び問い合わせ先

ロートニッテン株式会社 医薬情報問合せ窓口  
〒457-0038 名古屋市南区桜本町40番地の2  
TEL：0120-691-910 FAX：052-823-9115

## 26. 製造販売業者等

### 26.1 製造販売元

**ROHTO** ロートニッテン株式会社  
名古屋市南区桜本町40番地の2

N00713  
1-②